

治すために勉強をしにいった知識を深めていたのですが、トータル治療をしてくれる医師と出会い治療のやり直しをしました。きちんと理解するまでにずいぶん時間がかかりました。まずは、頻繁に起していた呼吸器症状が喘息治療を行う事でアレルギーを食べても出なくなってきた。鼻炎の治療を行う事で鼻水・鼻づまり症状がなくなった。結膜炎の治療を行う事で目目がプヨプにならなくなった。目の痒みがなくなった。目の周りが腫れることもなくなった。点と点が線になり実感へと変っていく。症状が出た時ばかり対応するのではなく、症状が出ないように治療すること。**発想の転換**です。やりたいことをするための治療に切り替えた。症状が出ないように、安心した生活を過ごせるようになり、可能性が大きく広がった！生活のQOLが大きく変わりました！

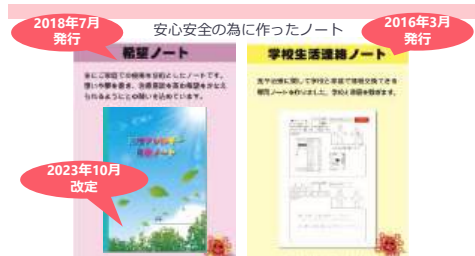
予防の第一歩は自分の症状、状態を知ることが必要だと思い「希望ノート」を作成。このノートは希望を持ち、食物アレルギー疾患治療に欠かせない子育てや成長過程を項目にしたノートです。

**目標を持ち治療を行えば必ず光が見える！**

次に田野さんの次女、ちなりさんが講演されました。

やりたいことをやるために一つ一つ治療し、一つ一つ立ち向かい、一つ一つ実施した結果、やりたいことを何でもできるようになった今の想いを語ってくれました。

ちなりさんからのメッセージ：「私は、アレルギーを治せました。アレルギーを治すために頑張るのも一つですが、やりたいことをするために、治療を頑張ることで、目標に向かって治療を頑張ることが出来、やりたいことを全力でできています。アレルギーという運命を背負ったということで、しんどいことももちろんありましたが、それ以上にその中での喜びの方が記憶として残っています。治療の先がみえなくなることもあるかと思いますが、やりたいことや目標をしっかりたてて、しっかり治療を続けていくと、実現できる日が必ず、来ます(´▽`)



#### ○サークル活動を通して

自分たちの経験から相談者には『理解してくれる』『共感してくれる』『人に話を聴いてもらう』が大切だと思い、傾聴を行います。言葉に出す事がなかなかできない現状で、わかってくれる人がいるだけでほっとする、孤独じゃない、1人じゃないと思えます。沢山のもやもや、こんがらがった悩みを打ち明ける、口にする事、湧き上がってくる涙を流すこと、自然と言葉に出すと悩みが整理されていき心が軽く、保護者の顔が明るくなります。

診断治療は変わってきていますが、色々な情報がありすぎて混乱しているので、それを一つ一つ整理していくように心がけています。

具体的な相談内容を大きく分けると4つに分かれます。

- ① 病院、医師の相談では：・病院同士の連携をしてもらえない・望む医療、治療が受けられない・通っているだけで治っていると思えない
- ② 治療方法では：・治療方針の違い・治療効果が感じられない・あきらめている・治っている、食べられるようになった人が身近にいない
- ③ 社会生活では：・保護者の精神的な負担が大きく、孤独を感じている・悩みが相談できない
- ④ 未来では：・治療に希望が持てない・移行期以降についての不安・心配がある

18年経っても相談内容の本質は変わりません。この年月で、患者を取り巻く社会は受け入れがかわってききましたが、地域により標準化された治療を受けられていない現状があります。そのようなケースについても多く相談をうけ、患者会活動には限界を感じることも多いです。

「Smile・Smile」で先輩ママとして今が不安で一生懸命な保護者に行っていることは『治ることを諦めない』『未来を感じてもらうこと』です。そのためには、治療内容を正しく理解する事が大切で私たちはお母さんの目線でそのお手伝いをしています。